

關西大學新報

発行所
大阪市大淀区役場中通
関西大学天六学舎内
関西大学新報社
電話堀川(35)1756番
発行人 奥谷 博之
(定価一部十四円)

根強く残る「旧意識」

民主日本への歩みた道

院は持たない。世界には似た日本、だが今やその日本は自説とすらおなじ院が出来てゐる。この本は、たゞ実の背景にあるものは何であつてか、われわれは九回の統括を述べる點で、翌年九月日本の歩みをひいたが、ここで展開されへばたゞ頭筋を振り返り反省するのみの意図はないのであるから。

『天皇制は如何』 一九二七年四月二日 一九二八年二月二日 三月二日

生きのびたか、
和二年八月十五日「黒体」
國民的公敵の株価は下落せず、む
ろ暴力革命などの敗戦に伴う不安
の一大要因となり、久留米の連合
して一時的に馬鹿の元氣を露
あらわすが、矢張り大蔵省の頭痛でもある

意持だ。これを好んで示す一例ばかりた娘體にはかまらなか
と少當の大薬局のトップを飾った。
ては仕合ぞ、三拍(さんぱく)すまつ
「朕の身は如何にござるる」

「ふとぞいへ、詔旨体験せり」
を驚かして崩壊した。
八月十五日 終戦の大詔発令
八月十六日 東久邇宮に大命降下
八月十七日 陸、海軍に勅語を
天皇の国民に対する自己犠牲を
たゞさるの名うつはる元氣浪花を

シノボルを坂大隈に利用した。
七月二十日「天皇は対する絶対難犯の鉄
止」
九月十四日「坂大隈の急進黨として天皇制擁護
論議」
八月三十日「天御心より燃軍甲子年秋之月の急進黨として天皇制擁護論議」

各部隊の富士下御殿町等々、城の裏側筆頭あつたんだ

日を迎えて

久島、長崎に原爆が投下され平
穏の祈りが始まって、われわれ
九度び配魯日を迎む。二月二十日
は、久島に原爆が投下され平
穏の祈りが始まって、われわれ

「お前輩が母として生むべき二行きものがあるとき、余人一島市はあの日既に死んだ個の娘の心を抱き、この懲役をひつかでた。の原漁師は既にして三十奈の入であるこれらの人々には政府は心を奪ひ去つたばかりでなく、今般の漁業を出立するのみならぬ者もいた。日本人は全世界にむかつて強く権利あるとされる民族が、繰り返し、とくべつ、しあなぎ原漁が初めて捕鯨船に上り組み

各所に起る人権の烽

ホワイトカードのスト

江綱系の人種争議が二ヶ月以上も続いて泥沼に陥り込んだ折しも今度は「資本主義の弊害」北漬に赤旗がなびき、労働團が唐突に暴走わたりて道行く人々の眼をまばゆさせた。

近江鉄系北洋版」というふれ出でて人権争議も乘ねた大阪証券取引所労のストが、かつて福岡銀行の例もあるよとこかく実戦面で腰の弱いホワイトカラーの労働者の力をどの程

表示していくかに注目がむわかれている。現在の緊迫した事態にわれわれ学生に無関係とはいえないものがある。一連のストの背景となりたものは何か、そして今後の見通し

る。いざ中立の立場を取るの不満が発露され、ほとんどの労働組合は、この問題に対する反対意見を表明する。

る建物、これが「日本本
カ」大阪証券取引所であ
り、大蔵省の監修で、明治後半に建設されたものだ。その外観は、西洋風の柱とアーチ構造で、七十余年の歴史にもかか
らず、現在もそのまま残っている。しかし、この建物が、なぜか「日本本カ」大阪証券取引所であ
った。

に居るべき時が来たとの感がする。あわてたのは理事側、火急で連絡を受けた。これは單なる誤解だ。

の裁判にはじまる。“取扱所に組”を出すやう、弁護士を頼んで会合が開かれる。どうう報道は理事連の労働法の講義に頭を痛める者たちの波瀾萬丈である。

あつせん委員長恐る
然であり取組までの交渉
府がより一層積極的であ
る。元老院のやむを得ない封禁令
によるものでなく封禁令の根柢
は全く封禁令の本質たる
に付いてお詫び申す。

「子が勞組を説いていた
事が原因で、かねてから
の怨恨が高まっていた」
が痛訴した直後、「私は便り

人類社会の平和はどうに
縛縛をみても明らかで、次は役
を演じた直毅課の十余人はひづか
にへりまでは、再びあつせと
積りはない」と理事会側を諭

第五類魔丸の築居著の方
水泡にさはばかりか、自分等も左
腰腹だつたら、どんな姿でち
運んだ話題を詮交した。恐る
り、事前にしらしたならばすべてが

死の床や病床にありつゝも、運が向くなればならないといふことは、あらゆる人が知り得ます。運があつたからだ。幸いが同じく運は長い腹なり。これまで



二十世紀ヒューマニズム文学

忍岡丸

大

学

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學

新

報

西

關

大

學